

特別企画展

新選組と 廣澤安任

開催期間

平成26年7月8日(火)～11月24日(月)

9:00～17:00 ※入館は16:30まで ※11/1～24は9:00～16:00

土方歳三肖像
佐藤彦五郎新選組
資料館蔵

廣澤安任肖像

近藤勇肖像
佐藤彦五郎新選組
資料館蔵

三沢市先人記念館

・企画展示室・シアタールーム ほか

第一部

「京都守護職時代の
新選組と廣澤安任」

平成26年7月8日(火)～9月15日(月)

第二部

「戊辰戦争と
新選組の消長」

平成26年9月20日(土)～11月24日(月)

展示内容

新選組と廣澤安任に係る資料展示及び映像上映

休館日

7/14、8/25～29、9/1・8・16～19・22・29、10/6・14・20・27、
11/4・10・17

入館料

高校生以上 300円 小・中学生 50円 幼児以下無料

※小・中学生/毎週土曜日は無料

主催:三沢市 主管:一般社団法人 三沢市観光協会 後援:青森県/三沢市教育委員会/会津若松市/東奥日報社/デーリー東北新聞社
協力:会津白根隊記念館/会津新選組記念館/佐藤彦五郎新選組資料館/小島資料館/八木邸(京都御屋)/市立函館博物館/函館市中央図書館

三沢市先人記念館

〒033-0164
青森県三沢市谷地頭4-298-652
TEL 0176-59-3009/FAX 0176-59-3045
Eメール senjin@misawasi.com
ホームページ http://kite-misawa.com/senjin_misawa

お問い合わせ先

アクセス

三沢空港から:車で20分/三沢駅から:車で30分
東北自動車道・第二みちのく有料道路三沢十和田下田ICから:車で30分
JR八戸駅から:車で60分、JR青森駅から:車で90分 ※夏期間の場合
・青い森たびタクシー ・ぐるっとバス



新選組と廣澤安任

京 都守護職会津藩主松平容保の配下となった新選組は、池田屋事件や禁門の変など尊皇攘夷で揺れる京の都で華々しく活躍しました。その近藤率いる新選組を担当したのが会津藩公用方を務めていた廣澤安任でした。

この特別企画展では、新選組と廣澤安任との関わりの中で、会津藩と運命を共にした齋藤一や弘前藩脱藩隊士である毛内有之助など、津軽・南部と縁のある隊士も紹介します。そして、新選組の誕生から終焉に至る足跡を二部構成で展示しますが、ご来館の皆様には明治維新という変革の歴史を少しでも感じて頂ければと思います。

第一部 <7/8~9/15>

文久3年2月(1863年)、清河八郎の策謀によって集められた浪士組。京都に到着し攘夷を唱えた清河と離別して近藤勇・芹沢鴨を始めとする浪士たちは、京都守護職会津藩御預かりとなった。

第一部では多摩地方日野の名士たちや天然理心流道場の試衛館、そして浪士組の発足といった彼らのルーツと廣澤安任を始めとした会津藩公用人との関わり、新選組の動きや組織の移り変わり、隊士の粛清などを展示解説します。

- 1、新選組の胎動期
- 2、浪士組の募集と上洛
- 3、浪士組の分裂と壬生浪士組の誕生
- 4、壬生浪士組と会津藩公用人
- 5、新選組の命名と主な事件
- 6、御陵衛士と隊士の粛清



戦字録
当館所蔵



戦友姿絵 山本 宗三郎(齋藤一)
市立函館博物館蔵



浪士英名録
佐藤彦五郎新選組
資料館蔵



新選組袖章
市立函館博物館蔵

第二部 <9/20~11/24>

慶応4年1月3日(1868年)、鳥羽・伏見の戦いを皮切りに戊辰戦争が勃発、新選組もその戦いへと巻き込まれていきます。

第二部では、鳥羽・伏見で敗れ、江戸に戻り甲陽鎮撫隊となった新選組と近藤勇の死から別々の道へ進んだ土方歳三、齋藤一といった隊士たち、そして北辺の斗南で「野にあって国家に尽くし」た廣澤安任などの生き様を展示解説します。

- 1、鳥羽・伏見の戦い、戊辰戦争の起こり
- 2、江戸への退却、甲陽鎮撫隊
- 3、近藤の死と組織の変遷
- 4、白河口の戦い、会津戦争突入
- 5、箱館戦争と戊辰戦争の終結



五稜郭之図
市立函館博物館蔵



戦友姿絵 土方歳三
市立函館博物館蔵



箱館戦争図
市立函館博物館蔵

映像で見る「新選組と廣澤安任」

多摩地方の名士の支援を受け尽忠報国の誠をもって浪士隊に参加した近藤勇や土方歳三ら天然理心流の試衛館の面々、そして京都守護職会津藩主松平容保を支えた廣澤安任について、ともに一介の浪士と下級武士出身という視点で重要な役を担った彼らの活躍の過程を映像で綴ります。

津軽・南部藩脱藩の隊士たち

各地から集まった新選組の隊士の中には津軽藩・南部藩(現在の青森県・岩手県)から加わった隊士もいた。

津軽藩からは伊東甲子太郎とともに御陵衛士に加わった毛内有之助、白河口の戦いで戦死した菊池央。南部藩からは浅田次郎原作の『壬生義士伝』のモデルともなった吉村貫一郎など。

この東北の地から幕末の動乱へ向かった彼らの思いを紹介します。